



週間情報



No.0737

発行日 令和7年9月30日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

消防本部の動き

訓練

◆ ロープレスキュー訓練を実施

西胆振行政事務組合消防本部（北海道）

西胆振行政事務組合消防本部では、令和7年9月1日（月）から3日（水）までの3日間、管轄内にある急傾斜地を活用して、救助隊による編み構造ロープを使用したロープレスキュー訓練を実施しました。

当日は、過去に実災害が発生した急傾斜地（斜度45度～80度）において、「山菜取りをしていた男性が足を負傷し身動きが取れない。」との想定で、落石に注意しながら、アンカーの選定、要救助者の位置を考慮した降下経路の選定、要救助者の救出経路の選定などを行い、普段の訓練施設では再現できない、実災害さながらの訓練を実施することができました。

今後も、あらゆる災害に対して、迅速、的確に対応できるよう、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 多数傷病者対応図上訓練(D I G)を実施

神戸市消防局（兵庫）

神戸市消防局では、令和7年9月3日(水)、北消防署員を対象とした、多数傷病者対応図上訓練(D I G)を実施しました。

当日は、「列車と乗用車の接触事故により、乗用車および列車内に多数の傷病者が発生した。」との想定で、出動指令から事案終結までを時間の流れに沿って訓練を進め、情報集約、指揮命令系統、出動部隊の活動要領や役割などについて、参加者全員が活発に意見を交わしながら確認し、共通認識を深めることができました。

また、訓練終了後には、10月から導入予定の新しいトリアージタグ(4枚綴り)を使用し、2人1組でトリアージ訓練も実施しました。

今後も、大規模災害が発生した際、さまざまな手法を用いて、「1人でも多くの生命を救う」、「防ぎ得た外傷死を無くす」ため、対応能力の向上に継続して取り組んでまいります。



【訓練の様子】

◆ 中継送水連携訓練を実施

長野市消防局（長野）

長野市消防局では、令和7年9月7日(日)、市内にある山間地において、管内消防団と合同で、中継送水連携訓練を実施しました。

この訓練は、管内消防団と連携した活動を行うことで、災害対応力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、林野火災の想定で、高低差148m・総延長1,500mのホースを延長し、ポンプの中継送水運用をセミブラインド型の実践形式で実施しました。

また、合同指揮本部では、活動隊の指揮・支援のため、消防団幹部と共同でドローンによる画像確認および地上部隊による情報収集を行いました。

今後も、現場において相互に活動内容の共有を図り、連携強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「救急隊員総合訓練会」を実施

真庭市消防本部（岡山）

真庭市消防本部では、令和7年9月8日（月）、9日（火）の2日間、「救急隊員総合訓練会」を実施しました。

この訓練会は、多様化する救急事案への対応能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、10組の救急隊が参加し、5種類の異なる想定訓練を行い、隊員個々の専門知識、技術、迅速な状況判断能力を再確認するとともに、隊員間の連携強化を図ることができました。

また、訓練終了後には、各隊で課題を共有したほか、今後の救急活動に生かしていくための振り返りを実施しました。

今後も住民の安全・安心を守るため、救急技術の向上に努めてまいります。



【訓練会の様子】

◆ 潜水訓練を実施

館林地区消防組合消防本部（群馬）

館林地区消防組合消防本部では、令和7年9月16日（火）、館林消防署訓練用ピット（深さ約3メートル）において、潜水士資格を有する職員を対象とした、潜水訓練を実施しました。

この訓練は、水難救助に伴う出動が年に数回と少ないことや実際の潜水活動は常に危険を伴うことから、潜水救助技術の向上を図ることを目的として、基本動作の再確認を中心に実施したものです。

今後も定期的に潜水訓練を継続し、知識と技術の一層の錬磨に努めてまいります。



【訓練の様子】

研 修

◆ 「予防スキルアップ研修」の実施

土浦市消防本部（茨城）

土浦市消防本部では、令和7年9月4日（木）、5日（金）の2日間、予防課職員による消防士と消防副士長の職員を対象とした、「予防スキルアップ研修」を実施しました。

この研修は、建築物の確認申請の審査方法および防火対象物の立入検査における着眼点について理解を深め、今後の火災予防活動に役立てることを目的として実施したものです。

そのほかにも、当研修を階級階層別に3週にわたって実施し、それぞれの職責に応じた専門知識の習得を目指します。

今後は、この研修を通じて得られた知見を予防業務に生かしてまいります。



【研修の様子】

◆ 「山岳救助研修会」を実施

富岡甘楽広域消防本部（群馬）

富岡甘楽広域消防本部では、令和7年9月10日（水）、「山岳救助研修会」を実施しました。

この研修会は、管轄内に日本三大奇景である妙義山をはじめ多数の名山を有し、秋の登山シーズンを迎えるに当たり実施したものです。

当日は、群馬県警察本部富岡警察署の妙義山警備隊2人を講師としてお招きし、登山のノウハウ、必要な装備品、登山中のエネルギー消費量などについてご講義いただきました。

この研修会を通じて、登山に必要な知識や体力を理論的に学ぶことができ、山岳救助に対する知識を深めることができました。

今後も、現場活動能力の向上と関係機関との連携強化を図るとともに、住民の安全・安心の確保に邁進してまいります。



【研修会の様子】

◆ 「救急隊員研修会」を実施

行田市消防本部（埼玉）

行田市消防本部では、令和7年9月11日（木）、「救急医療週間」の一環として、「救急隊員研修会」を実施しました。

当日は、市内で内科・循環器内科を開業している那須学医師を講師としてお招きし、循環器疾患および心電図に関する基礎知識についてご講義いただきました。

研修会を通じて、循環器疾患における対応や適切な搬送判断の重要性を再認識することができたほか、実際の救急現場で得た心電図の解説により、傷病者の循環動態について理解を深めることができました。

今後も、研修会で学んだことを踏まえ、傷病者に有益となる活動を実施できるよう、救急隊員の知識と技術の向上に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 「火災除染研修会」をWEB形式で実施

太田市消防本部（群馬）

太田市消防本部では、令和7年9月17日（水）、「火災除染研修会」をWEB形式で実施しました。

この研修会は、今年度、防火服用洗濯機の導入を予定していることから、火災除染に対する知識の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、約80人の職員が参加し、北海道日高東部消防組合消防本部の大島隆弘氏を講師としてお招きし、「除染と有毒ガスの種類」、「アメリカや諸外国での対応」、「個人対策とチームでの対応」、「がんとは」、「消防士とがんの関係と統計」についてご講義いただき、見識を深めることができました。

今後も、職員一人一人が火災除染に対する意識を高め、安心して働ける職場環境づくりに取り組んでまいります。



【研修会の様子】

そ の 他

◆ 消防協力者に消防長から感謝状を贈呈

須坂市消防本部（長野）

須坂市消防本部では、令和7年9月6日（土）、2事案の消防協力者7人（2人欠席）に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

1事案目は、同年3月26日（水）、市内で発生した建物火災において、消防協力者が火災を早期に発見し、駆け付けた近隣住人の消防協力者と協力し、水バケツやじょうろで初期消火活動を行ない、被害の拡大防止に貢献したものです。

2事案目は、同年5月27日（火）、管内の駅で発生した救急事案において、待合室で心肺停止となった50代男性に対し、消防協力者の5人が連携して119番通報、絶え間ない胸骨圧迫、AEDの装着を実施し、救急隊に引き継いだものです。

男性は、消防協力者5人の迅速かつ的確な行動により、救急隊到着後に心拍が再開し社会復帰されました。



【感謝状贈呈の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 消防協力者に消防長から感謝状を贈呈

川口市消防局（埼玉）

川口市消防局では、令和7年9月8日（月）、消防協力者に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年7月19日（土）、管内で発生した建物火災において、2階のベランダで逃げ場がなくなっていた女性に対して、現場付近で仕事中の消防協力者が救出したものです。

消防隊が到着した時には、2階は炎に包まれていましたが、消防協力者の迅速かつ勇敢な行動により、女性は怪我もなく救出されました。

当消防局では、この功績に敬意を表すとともに、消防長から感謝の意が伝えられました。



【感謝状贈呈の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 消防協力事業所に消防長から感謝状を贈呈

幸田町消防本部（愛知）

幸田町消防本部では、令和7年9月9日（火）、消防協力事業所（Yogi Transport 合同会社）に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年7月22日（火）、幸田町大字坂崎地内で発生した火災において、隣接する同事業所の従業員が協力し、119番通報、初期消火、消防隊の誘導を行ったものです。

事業所従業員の連携の取れた勇敢な行動により、火災の被害を最小限に止めることができました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 救急活動協力者に消防長から感謝状を贈呈

芳賀地区広域行政事務組合消防本部（栃木）

芳賀地区広域行政事務組合消防本部では、令和7年9月10日（水）、救急活動協力者の6人に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年5月3日（土）に発生した救急事案において、バドミントン競技中に心肺停止となった傷病者に対して、救急活動協力者の6人が連携し、119番通報、胸骨圧迫、AEDを活用した除細動を行い、救急隊に引き継いだものです。

傷病者は、救急活動協力者6人の勇敢な行動により、一命を取りとめ、無事に社会復帰されました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 消防局長から表彰状を贈呈

埼玉東部消防組合消防局（埼玉）

埼玉東部消防組合消防局では、令和7年9月10日（水）、住宅用火災警報器の普及啓発ポスター原画制作に対する表彰式を実施し、窪田杉戸町長に同席いただき、原画を提供された昌平高等学校に対して、消防局長から表彰状を贈呈しました。

このポスターは、住民の住宅用火災警報器設置（交換）に対する意識高揚を図ることを目的として、同高等学校美術部の学生にご協力いただき、制作したもので、管内（加須市・久喜市・幸手市・白岡市・宮代町・杉戸町）の公共施設や事業所など1、500か所に配布し、掲示していただきます。



【表彰状贈呈後の記念撮影】



【普及啓発ポスター】

◆ 救助工作車を更新し運用を開始

石狩北部地区消防事務組合消防本部（北海道）

石狩北部地区消防事務組合消防本部では、令和7年9月1日（月）、当別消防署の救助工作車を更新し、運用を開始しました。

これは、同年7月30日（水）に納車され、約1か月間の取り扱い訓練を経て、運用を開始したものです。

今回導入した救助工作車は、フルタイム4WDを採用し、悪路や雪道において、特にスタック事案が発生するような状況においても安定した走行を可能としたほか、キャビンはハイルーフ仕様となっており、車内の作業空間を広く確保しました。

また、車両周囲の作業灯は、LEDを採用することで夜間活動における視認性も向上したほか、けん引用ウインチを車両前後に装備しました。

今後も、多種多様な災害現場に活躍できるよう訓練に励んでまいります。



【新救助工作車】

◆ P R動画が採用された楽曲「かっこいい消防車」の配信が開始

加古川市消防本部（兵庫）

加古川市消防本部では、令和7年9月1日（月）、株式会社エクシングが運営するカラオケJ OY SOUNDにおいて、当消防本部のP R動画が採用された楽曲「かっこいい消防車」の配信が開始されました。

これは、今年3月の春季火災予防運動の一環として、こども向けコンテンツを配信する人気Y o u T u b e rのヒゲパパさんとコラボレーションし、制作した当消防本部のP R動画がカラオケのイメージビデオに採用されたものです。

今後は、ひとりでも多くの方が、消防への関心を持っていただき、さらには当消防本部のP Rにつながることを期待しています。

カラオケなどに行かれた際には、是非映像もご覧いただきながら、歌ってください。



【サムネイル画像】



【Y o u T u b e の2次元コード】

◆ 「第36回柳川市幼年消防大会」を開催

柳川市消防本部（福岡）

柳川市消防本部では、令和7年9月3日（水）、柳川市幼少年婦人防火委員会と一般財団法人日本防火・防災協会が共催し、「第36回柳川市幼年消防大会」を開催しました。

この大会は、職員と幼年消防クラブ員が交流を図ることで、幼年期から防火思想を醸成していくことを目的として開催したものです。

当日は、市内の幼年消防クラブ21団体と来賓を含め約500人が参加し、職員による仕事紹介、火災映像や〇×クイズによる防火啓発を重視した映像観覧型の内容として実施したほか、大会の終盤では、防火の誓いを元気いっぱいに行い、火遊びをしないことを約束していただきました。

今後、「防火の輪」が地域全体へ大きく広がっていくことを期待しています。



【幼年消防大会の様子】

◆ 音楽隊見学体験会を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁音楽隊では、令和7年9月4日（木）、当庁音楽隊に興味がある学生を対象に音楽隊見学体験会を実施しました。

当庁音楽隊は、消防吏員で構成されていることから、人事課採用係と連携して募集活動を行っています。

当日は、採用係員による業務説明や施設見学のほか、「体験要素」を加えて、音楽隊員との合同演奏や交流会を行い、内容の充実を図りました。

また、参加者からは、採用試験や消防署勤務に関する質問が多く挙げられ、参加者の熱意の高さを感じることができました。

今後も、消防音楽隊の魅力を伝えられるように、さまざまな取り組みを進めてまいります。



【採用係員による業務説明の様子】



【参加者との記念撮影】

◆ 「第1回はすぴいジュニアミニメディカルラリー」を開催

蓮田市消防本部（埼玉）

蓮田市消防本部では、令和7年9月6日（土）、消防本部庁舎敷地内において、埼玉県内初となる子ども向け「第1回はすぴいジュニアミニメディカルラリー」を実施しました。

このイベントは、「市内小中学校で実施している応急手当講習の効果確認」、「子供たちの将来への職業選択体験」、「10年先の救急車適正利用と抑制」を目的として当消防本部が企画運営し、実施したものです。

当日は、市内の小学校5、6年生36人がチームを作り、5つの課題に挑戦し、当初は、緊張した表情で戸惑いながら活動をしていた選手たちも、競技が進むにつれて積極的に周囲と協力を図り、一生懸命課題に取り組んでいる姿を見ることができました。

今後も、市民に寄り添う消防行政運営に努めてまいります。



【メディカルラリーの様子】

◆ 「救急・消防フェスタ in サーラ」を実施

豊橋市消防本部（愛知）

豊橋市消防本部では、令和7年9月6日（土）、「救急の日」を迎えるに当たり、サーラプラザ豊橋において、「救急・消防フェスタ in サーラ」を実施しました。

本イベントは、サーラエナジー株式会社との包括連携協定に基づき、地域住民に救急や火災予防について理解を深めていただくことを目的として実施したものです。

当日は、簡易救命講習、防火セミナー、救急活動のデモンストレーションなどを実施したほか、市内の小中学生から応募された多くの救急標語の中から優秀作品の表彰式を行いました。

参加した親子から「いざという時の応急手当の大切さがわかりました。」との声を聞くことができました。

今後も、さまざまな機会をとらえ、多くの方々に意識啓発に関する取り組みを実施してまいります。



【表彰後の記念撮影】



【救急・消防フェスタの様子】

◆ 「救急の日」フェアを開催

今治市消防本部（愛媛）

今治市消防本部では、令和7年9月6日（土）、「救急の日」フェアを開催しました。

このイベントは、「救急の日」を迎えるに当たり、市民の皆さまに救急業務への理解を深めていただくとともに、応急手当の普及を図ることを目的として実施したものです。

当日は、多くのご家族連れにご参加いただき、応急手当体験、救急車両の展示、スタンプラリーなど、楽しみながら学べる体験ブースを設置し、スタンプを集めた方には消防グッズを配布しました。

また、今年は地元のJ2サッカーチームFC今治にご協力いただき、心肺蘇生法のデモンストレーションを行い、子供たちの笑顔あふれる大変盛況なイベントとなりました。

なお、令和7年9月1日より、救命講習の受付から終了証の発行までをLINEで手軽に完結できるようになりました。

今後も、より多くの市民の方々に応急手当を受講していただき、救命率の向上につながるよう、積極的なPR活動を続けてまいります。



【救急車の展示】



【FC今治による心肺蘇生法のデモンストレーション】

◆ 職員の家族向け庁舎見学を実施

甲府地区広域行政事務組合消防本部（山梨）

甲府地区広域行政事務組合消防本部では、令和7年9月6日(土)、7日(日)の2日間、南消防署において、職員の家族向け庁舎見学を実施しました。

このイベントは、「一度大規模な災害などが発生した場合には、消防職員は非番休暇などであっても業務に従事しなくてはならず、家族の理解や支援が不可欠である。」ということを理解していただくことを目的として実施したものです。

当日は、消防施設や消防車両の見学をはじめ、防火衣を着用しての放水体験など、さまざまな体験をしていただき、職務に対するさらなる理解と職員の士気向上にも寄与する有意義な機会となりました。

このイベントを通じて、多くの笑顔や真剣な表情を見ることができたと同時に、家族が勤務する姿を目の当たりにして、誇らしげに感じていた姿がとても印象的でした。



【庁舎見学の様子】



【集合写真】

◆ 「中津川市消防フェスティバル」を開催

中津川市消防本部（岐阜）

中津川市消防本部では、令和7年9月7日（日）、「中津川市消防フェスティバル」を開催しました。

この消防フェスティバルは、消防職団員が協力し、「見る・学ぶ・体験する・遊ぶ」をコンセプトに、当市で初めて開催したものです。

当日は、残暑の中、約2,000人が来場し放水体験、レスキュー体験、救助隊員による交通事故車両破壊訓練展示、救急隊員による救急資器材実演説明、はしご車での記念撮影などを行い、消防への理解を深めていただくとともに、子供達が楽しく消防の仕事を体験する事ができました。

また、消防団員加入相談ブースを設け、消防団員募集にも力をいれ、充実した消防フェスティバルとなりました。

このイベントを通じて、予想以上に多くの方が来場され、消防に興味を持っている事を知ることができ、消防職団員の励みとなりました。



【イベントの様子】

◆ 「救急フェスタ2025」を開催

高梁市消防本部（岡山）

高梁市消防本部では、令和7年9月7日（日）、「救急医療週間」の一環として、新消防庁舎完成後、初めてとなる「救急フェスタ2025」を開催しました。

当日は、多くの市民が来場し、心肺蘇生法やAEDの取り扱い体験、救急資器材の展示、子供用感染防止着と救助服の試着などを通じて、楽しみながら救急医療への理解を深めていただきました。

また、女性消防団員にもご協力いただき、市民と消防が一体となり、「いのちを守る」意識を共有することができました。

新庁舎での初開催を契機に、今後も地域と連携し、救急業務の充実に努めてまいります。



【イベントの様子】

◆ 「救急の日」イベントを開催

松山市消防局（愛媛）

松山市消防局では、令和7年9月9日（火）、朝の通勤・通学の時間帯に合わせて、松山市駅前において、「救急の日」イベントを開催しました。

このイベントは、救急医療への理解と関心を深めていただくとともに、救急業務の現状などを市民の皆さまに広く周知することを目的として実施したものです。

当日は、当消防局の職員やマスコットキャラクターの「はっぴーカバー君」が、救急車適正利用の啓発をはじめ、マイナ救急などの取り組みを多くの人に周知しました。

また、啓発用グッズの配布、救急車両展示も行い、市民から「救急車は本当に必要とする人が利用してほしいですね。」との声が寄せられました。

今後も市民の皆さまと共に、安全・安心なまちづくりを進めてまいります。



【イベントの様子】

消防庁通知等

◆ 移動タンク貯蔵所等に対する立入検査の実施について

(消防危第207、令和7年9月17日)

消防庁危険物保安室長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各政令市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

危険物の移送又は車両による危険物の運搬中における災害は、一度発生すれば、国民の生命、身体及び財産に重大な危害を及ぼすおそれがあるほか、交通遮断による経済活動の停滞等、社会生活に多大な影響を及ぼすこととなります。

つきましては、移動タンク貯蔵所等による事故の未然防止と危険物取扱者の遵法意識の高揚を図るため、下記の要領で立入検査を実施し、より一層の安全確保の徹底を図るようお願いします。
—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/250917_kiho_01.pdf) に掲載されています。

消防庁危険物保安室

担当：馬場、笹壁

TEL：03-5253-7524（直通）

E-mail：fdma.hoanshitsu@soumu.go.jp

報道発表

◆ 「火災予防分野における技術カタログ」に掲載する新たな点検技術の公募

(令和7年9月18日、消防庁)

消防庁では、消防法令に基づく防火対象物、防災管理対象物、消防用設備等の定期点検について、デジタル技術等を活用した新たな点検技術を取り入れるため、「火災予防分野における技術カタログ」に掲載する技術の公募を実施しますのでお知らせします。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/0de8752b9f40ca9ce5ba8ec28a3750cb87f17b88.pdf>) に掲載されています。

(連絡先)

消防庁予防課

担当：関、辻、中西、新田

電話：03-5253-7523

Mail：yobo_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を
「_atmark_」と表示しております。

送信の際には、「@」に変更してください。

◆ 令和7年度消防防災科学技術賞受賞作品の決定

(令和7年9月19日、消防庁)

「消防防災科学技術賞」は、消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰するものです。

この度、令和7年度「消防防災科学技術賞」の受賞作品を決定しました。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/250905_soumu_01.pdf) に掲載されています。

連絡先

消防庁消防研究センター研究企画部

担当：千葉、福原

電話：0422-44-8331

情報提供

◆ 第9回全国消防職員剣道大会の開催について

全国消防職員剣道大会事務局
東京消防庁剣道部会

本大会は、剣道を通じて、全国の消防職員相互の理解と親睦を深め、強固な連携を図ることを目的として、2年毎に開催するものです。奮ってのご参加を心よりお待ちしております。

- 1 大会開催日時
令和8年2月20日（金）10時00分開会予定
- 2 大会会場
大森スポーツセンター 東京都大田区大森本町二丁目2番5号
電話：03-5763-1311 URL：<https://omori-sc.jp>
- 3 参加対象
消防職員（消防吏員、一般職員など含む。）
- 4 試合
 - (1) 団体戦
5人制の団体試合とし、リーグ戦を実施後に決勝トーナメント方式で実施します。
チーム編成は、原則として消防本部単位としますが、各都道府県内の合同チーム、都道府県境の隣接・近隣本部が連携して合同チームを編成することも可能とします。
 - (2) 個人戦
女性職員とし、リーグ戦実施後に決勝トーナメント方式で実施します。
- 5 意見交換会
 - (1) 開催日時
令和8年2月19日（木）17時30分から19時30分まで
 - (2) 開催場所
スクワール麹町3階「錦華」 東京都千代田区麹町六丁目6番
電話：03-3234-8739 URL：<http://www.square.or.jp/>
- 6 その他
 - (1) 本大会への参加申込み要領などの詳細につきましては、別途ご担当者様宛にメール送付予定ですが、「東京消防庁剣道部会ホームページ (<http://www.tfd-kendoclub.com>)」にも掲載しますので、ご確認ください。
なお、令和7年11月30日（日）を申し込み締切日とさせていただきます。
 - (2) 大会前日の合同稽古会は実施しませんので、予めご了承ください。
 - (3) 各種お問合せやご相談などございましたら、tfd-kendo@outlook.jpまでご連絡ください。

【問合せ先】

全国消防職員剣道大会事務局
東京消防庁剣道部会
担当：折笠 雄基
電話：090-5434-8861
URL：<http://www.tfd-kendoclub.com>
MAIL：tfd-kendo@outlook.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 木原

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。